~愛媛大学社会共創学部だより~

一緒に作り、 同じ釜の飯を食う ~文化の壁を越えて仲良くなる必勝法~

証という認証制度があり、ムスリムはこの認証飲食物のみを販売する店舗が持つハラール認た食材をハラームと呼ぶ。ハラールに該当する

た食材をハラームと呼ぶ。ハラールに該当するべることが許された食材をハラール、禁じられしている。イスラム教には食事に戒律があり、食

農山漁村マネジメントコース 3回生

をもつレストランはゼロである。

このことが原因で彼女は安心して外食をす

ることを考えると、愛媛県にいるムスリムの割4番目に多く、国民の8割がイスラム教徒であ

愛媛県の在留外国人のうちインドネシア人は

国人は増えているのがわかる。また、図2より、

図1によると、右肩上がりに愛媛県在留外

はないかと思うようになった。

大学内外を含めた松山市周辺にハラール認証 がある店舗で安心して飲食ができる。しかし、

愛媛大学社会共創学部 地域資源マネジメント学科

載が始まります。学生が大学内外での活動から今号から「愛媛大学社会共創学部だより」の連 得た気づきや発見を紹介させていただきます 令和6年3月の連携協定締結をきつ

友達なのに一緒にご飯が食べられない…

した。彼女とは大学内外のフィールドワークをがいる。彼女は今年の5月から愛媛大学に入学同じコースの友達にインドネシア人の留学生 共に行った。長いときは朝から夕方まで1 で私が直面した問題は「彼女と同じ時、 同じもの」が食べられないことだった。 ルドワ -クをすることもあった。そこきは朝から夕方まで1日か .同じ場 クを

ムという。)であり、彼女もイスラム教を信仰 インドネシアは約8%がイスラム教徒(ムス

15,000 10,000 5,000 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 R1 R2 R3 R4 R5 愛媛県在留外国人数の年別推移 出展:法務省「在留外国人統計」令和5年6月調査

開催した。一緒に

出展:愛媛県国際交流課

一緒に食べられる場所を作ろう!

る。私はこの問題を解決したいと思った。

ル対応は愛媛県全体の問題になってくるといえ タから、問題意識として挙げた松山市のハラー 合は増加していると考えられる。これらのデー

る場を提供するために、松山市に住むムスリ

インドネシア料理会を ムが安心して外食でき

図2 愛媛県在留外国人の国籍別人員内訳

ためだ。 食できる場を作る

として招き、日本んの意味)を先生 在住ムスリム

4,500 4,000 3,500 2,500 2,500 1,500 1,000 500

リムが安心して外法がわかり、ムス 材料名や調理方ハラール食材の原 料理を作ることで

2024年2月に開催したインドネシア料理会

人の

合計 は大学外から参 した。その中に した日本人や 136人が参加 ンア人16人の

2024 年 2 月に開催したインドネシア料理会

ピサンゴレンを購入するお客さん

日本人にとっ

上させる中で 山市のムスリ このことは松

とても思う 60.0%

根拠になる。

思わない

と考えられても食材の新たな活用方

少し思う

図6 ピサンゴレンを今後も購入する意向

あまり思わない2.0%

じとき、同じ場いを生んだ。「同しっな生んだ。」同な生んだ。「同なおり、食を通

所で、 たしなみレシピを学んだ経験が、ハラール食材日本人にとっても、ibuが教える本場の味を 加者が新たな出会いを生むことができた。 への理解を深めることに貢献した。一緒に作り じ釜の飯を食うことで、文化の壁を越えて参 同じもの」を食べることができた。また、

が集まった。購入者の55・6%が満点をつけてしさレベルを聞いた質問に対して、図5の回答アンケート協力をお願いした。5点満点のおい

今後の展望

販売に加えて購入していただいたお客様に

家に帰って家族につくってあげたい」「バナナ

する可能性ときっかけを掴むことができた。在活動を通して、松山市のムスリム対応が向上

いる。満点の回答者の中には「おいしかったので

いな子でも食べられた、レシピを教えて」という

大街道土曜夜市に出店

こで、レシピを学んだ私達を含む参加者が次は と考えるようになった。 から学んだことで、私たちは日本にある食材で インドネシア料理会でハラ ル料理を他者に伝えられないだろうか ル料理をレシピ

染みがあり、全てハラール食材である。粉、米粉、餅粉、塩、砂糖、バナナと日本でも馴てカリっと揚げたおやつである。材料は、小麦 だったハラ ゴレンは料理会の際に日本人参加者に大人気 ゴレン」を大街道土曜夜市で販売した。ピサンーそこで、インドネシアの屋台おやつ「ピサン ル料理の一つで、バナナに衣をつけ

び、実際に作って知り、レシピを学

野外イベントでの出店を通して、松山市に住むドネシア料理会の継続的な開催や規模の拡大、

めには、継続的なアプローチが必要である。 住ムスリムが暮らしやすい街づくりをするた

方々がムスリム文化を理解するきっかけを提

があった。味を

ル料理を作ることができると知った。そ

55.6% 3点 2点 5点 4点

供していきたい

が「はい」と答えが「はい」と答えが「という活動の方にも伝が一般の方にも伝が一般の方にも伝が一般の方にも伝が一般の方にも伝が一般の方にも伝

た

3.3% 1点

ていることや不自由に思うこと、松山市のムス知り合う機会が増えた。彼ら彼女らから、困っまた、活動を通して松山市に住むムスリムと

のピサンゴレンがは、ハラール料理 人者に好印象

を得ているという

るハラー

た。学校給食が食べられない、赤ちゃんに飲ませ リム対応についての意見を多く聞くようになっ

ル対応の粉ミルクがない、大学の食堂

図5 ピサンゴレンの味の評価(5点満点)

地域に伝え、解決策を模索する仲介役を果たほしいなどである。私たちは、これらの事実をに週2回でもいいからハラールフードを出して

17 \$ 1.5 (2024.1)

ル対応に問題意識が芽生え、彼女以外にも安もあった。このことがきっかけで松山市のハラー

心して外食ができないムスリムが多くいるので

ク後の夕方に帰宅してからごはんを食べること いる中、彼女は食事を取らず、フィールドワーることができず、私たちがお昼ごはんを食べて